

せ。世界遺産になつた姫路城の近くにあります。

この度はおなつかしいお便りをありがとうございました。もう一度お伺いしたいと思つております。

早田 節子

今も、私の目に残る、会津・新鶴の景色は、磐梯山のシルエットの下にズウーッとひろがる一面の稻の波、その田んぼの中にまつすぐ伸びた線路…そこにボツンと、屋根も改札も無いホームがあり、緑一色のあの風景はまさに思い出の一つです。

小学生だった私にとって疎開生活は忘れられない日々だった。両親と別れ、友達だけで毎日の生活を送るのは、初めての事で、しばらくはホーム・シックで、夜になると窓辺で涙々…でも家に出す手紙には楽しい事ばかり書いて、親に心配させないように。今にして思えば、田舎の生活は東京にては経験出来ない事が一杯あつたと思う。

村のお祭りには、近所の農家におよばれしてつきたてのお餅とかいつもいご馳走を頂いたり、親元を離れているのでさみしくないと氣をつかつて頂いたり泊まっていた花紋屋の人達や村の人達のやさしい心づかいでのひもじい事はまつたく感じませんでした。

ぶどう畠に連れていくつてもらつて、中の種を出さないで食べると渋くならないので、たくさん食べられる、とか。
もうあの頃の人にはお目にかかる事もできないだろうが、もう一度お訪ねしてみたい！そんな気持になりました。

吉野 カズ子

終戦六十年、早いような遅いような、私は子供であつた。今はシルバ

ーになり、今朝ラジオ体操で、体力づくりで、励んで居ります。湯本温泉より、新鶴村へ再疎開し、新鶴村、新鶴村、脳裏に焼きついています。廻りの山々の美しさ川でみんなと楽しく水遊び、見上げると、磐梯山が色を変えながら、私達のことを、ずうと見詰めているようだつた。今だにあの美しい風景は忘れられない。

廻りは、野や畑に囲まれ、大自然で、二十名位の学童が、花紋屋館に、半年位お世話になり、今は他界されたおじいさんやおばあさんがたは私たちを我が子のように、よくして下さいました。この厚恩は今も忘れません。二人ずつ分かれて、お呼ばれされて、あんころ餅をご馳走になつた。あの美味しいこと、今だに下の裏に残つています。

私の弟が後から、本郷へ疎開したので、線路伝えで本郷へ歩いて行つた思い出は忘れられない。随分長い道のりでした。やつとたどりついたのが、お昼頃だつたと思われます。食料が私たちとあまりに違うので、可愛そうでだれもいらない所で、銀しやき（白米のこと）私の持つてた、おにぎり二個を弟に食べさせてあげました。美味しいそうに、かぶりつくように、食べていました。数々の思い出は沢山あります。

それから、まもなく先生から、今日はだ大事な放送があるので、皆さん一緒に聞きましょう。花紋屋館の二階へ集まつて、天皇陛下のお言葉を聞いて、終戦を迎えてそれから、まもなく上京へ、一年半ぶりに両親の元へ、東京は変わり果てた姿、廻りは、一面焼け野原でびっくりしました。幸い私の家は焼けずに残つたので、ほつとしました。この疎開先は私の一生の思い出の一駒です。

牛田 光義

昭和二十年四月 私は母親が教員をしていた中野区啓明国民学校に入